

せんだいメディアテーク

■基礎データ

3つのコンセプトを持つ、
美と映像の活動拠点

「最先端のサービス（精神）を提供する」
「端末（ターミナル）でなく節点（ノード）である」
「あらゆる障壁（バリア）から自由である」
がコンセプト。すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるように支援する公共施設として、美術・映像作品の展示や鑑賞のほかメディアを利用した活動・ワークショップの展開、図書館サービスなどを提供している。

■施設写真



写真出典：https://www.smt.jp/archive/photolibrary/

所在	宮城県仙台市
開館年	2001年
面積	敷地面積：3948㎡ 建築面積：2844㎡ 延べ面積：21654㎡
整備費	建築工事費 約130億円
整備手法	従来方式
運営手法	2・3・4階は市直営 1・5・6・7階は指定管理
年間運営費	592,329千円（2021年度）

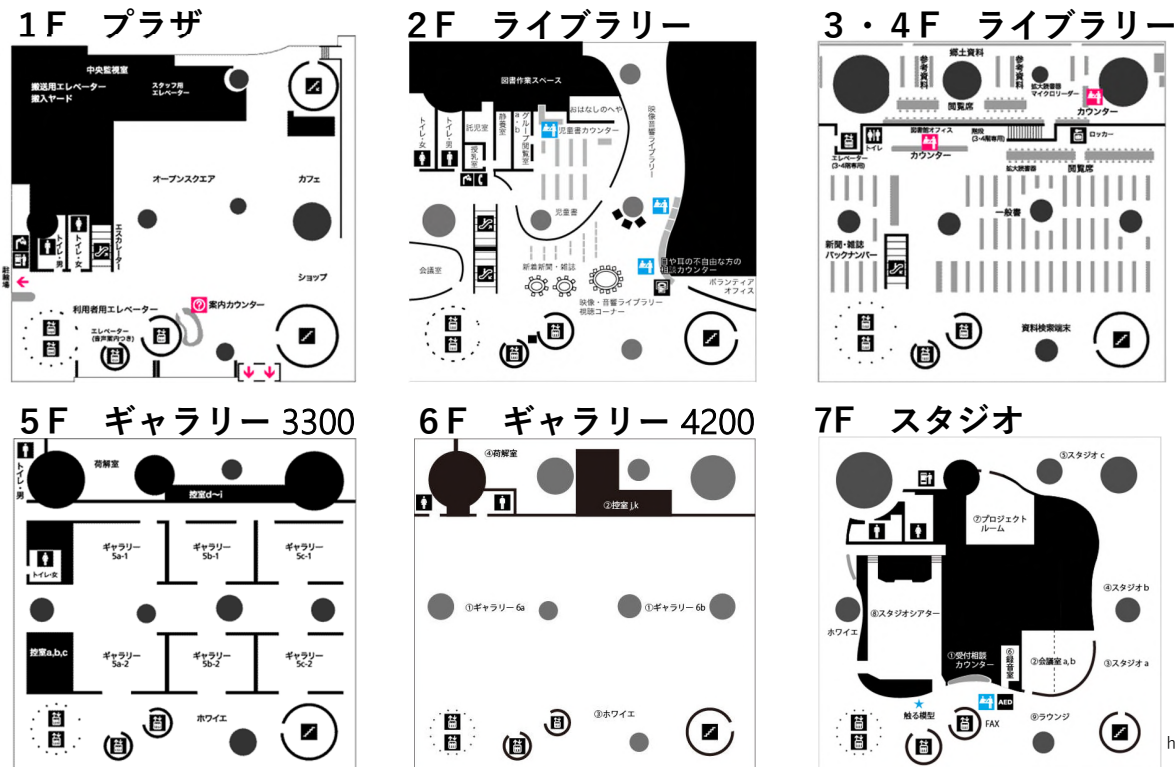
■運営主体

指定管理：公益財団法人仙台市市民文化事業団

せんだいメディアテーク

■施設構成

各施設は多様な活動形態に対応できるようにつくられており、利用者がそれぞれの使いかたを発見し、使うことができる。



せんだいメディアテーク

■特徴

震災の記憶を継承する活動

《3がつ11にちをわすれないためにセンター》

2011年5月に、東日本大震災からの復旧・復興の過程を独自に発信、記録する「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設。

市民、さまざまな分野の専門家・アーティスト・スタッフが協働して、震災とその復旧・復興のプロセスを記録・発信し、震災に対して向き合っているためのプラットフォームとして、情報を公開するとともに、収集したデータはアーカイブとして館に保存される。記録を囲み、震災について語り合う場づくりも行われている。



3

せんだいメディアテーク

■特徴

市民連携で地域の文化をつくる

《メディアスタディーズ》

メディアを活用して地域の文化をつくる個人・グループによるさまざまなプロジェクトを展開。

(例) 『どこコレ』

NPO法人「20世紀アーカイブ仙台」とせんだいメディアテークが主催するプロジェクト。収集している昔の写真の撮影場所を市民とともに探していく。だれでも実施することができる地域の記憶発掘装置としてのプロジェクトは、ノウハウを公開し全国他施設にも拡大している。



お題となる写真に対し、参加者が知っている情報をどんどん追加して写真の謎を解明する「どこコレ」

《せんだい・アート・ノード・プロジェクト》

「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐアートプロジェクト。

(例) 『ワケあり雑がみ部』

アーティストの藤浩志による、仙台市のごみ分別区分のひとつである「雑がみ」をテーマとしたプロジェクト。市民参加型の部活動として、雑がみを素材とした作品制作を行う。2017年度に活動がスタートし、現在も継続中。



せんだいメディアテークにとどまらず、商店街や小学校でのワークショップへと広がりをみせている。

4

せんだいメディアテーク

■特徴

市民の自主的活動の支援

《設備環境の整備》

スタジオ、録音室等、市民が自主的にメディア活動を行える環境を整備。成果物はライブラリーや上映シアター等で公開することもできる。活動を通して収集されたデータや成果物はデジタルデータとして館に保管され、アーカイブ化される。



編集スタジオ、録音スタジオ等様々なメディアを活用できる環境が整っている「スタジオ」

ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス

■基礎データ

集う、学ぶ、創る、育む、知的創造拠点

図書館機能、生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の4つの機能を備えた複合機能施設。複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざす。

所在	東京都武蔵野市
開館年	2011年
面積	敷地面積：2166.2㎡ 建築面積：1571.47㎡ 延べ面積：9809.76㎡（うち駐車場等の面積938.71㎡）
整備費	建築工事費 本棟：約37億円
整備手法	従来方式
運営手法	指定管理
年間運営費	555,819千円（2019年度）

■施設写真



■運営主体

公益財団法人武蔵野文化生涯学習振興事業団が指定管理者として運営を行う

写真出典：https://www.city.musashino.lg.jp/shisetsu_annai/koen_shiminnouen/kyonan/1000795.html

ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス

■施設構成

館内はできるだけオープンなつくりとし、図書館の機能を意図的にばらして各階に分散配置。来館者が行き来しやすいよう上下階を結ぶ縦動線の回遊階段を設置。



- 図書館
- 生涯学習支援
- 青少年活動支援
- 市民活動支援



出典：<https://www.musashino.or.jp/place/1001587/1001588.html>

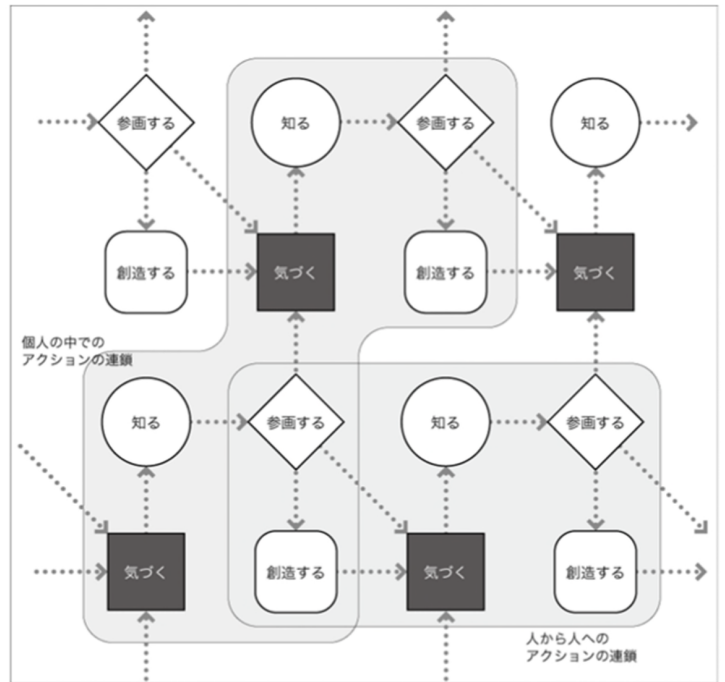
ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス

■特徴

アクションの連鎖が起こり得る機会と場の提供

利用者が日常生活において、自主・自発的に読書や学習を行うことや、課題が発生した場合、その課題を解決するための過程では、対象に興味を持つことと同時にさまざまな「アクション」のプロセスを経ることが重要であるとし、武蔵野プレイスは、この「気づき」から始まる「アクションの連鎖」が起こり得る「場」を提供し、支援していくことを目指す。

「アクション」	「場」
気づく	→ イベント開催や情報発信
知る	→ 図書資料、情報データベース → レクチャー、ワークショップ
参画する	→ 市民活動や個人の活動の場を提供
創造する	→ 創造された知識を編さん、成形、発信、発表していくための環境を提供



出典： https://www.musashino.or.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/618/1001618-01.pdf

ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス

■特徴

市民活動の支援と青少年の居場所づくり

《市民活動の支援機能》

市民活動に必要な環境の提供、情報の収集、相談業務を行い、現在活動している個人や団体の活動を支援。また団体の活動を広げられるよう、団体間、団体と地域間等のコーディネーターの役割を果たし、開かれたネットワークを形成することを支援。

- ・ワークラウンジやプリント工房の設置
- ・市民活動カウンターにスタッフが常駐し相談が可能
- ・市民活動に役立つ書籍等の資料閲覧や情報発信
- ・団体の活動に必要な物品の管理や情報交換の手段としてロッカーやメールボックスを設置



ワークラウンジ



市民活動カウンター

《青少年専用スペース ティーンズスタジオ》

地下2階のフロア全体を青少年活動の場「ティーンズスタジオ」と設定。青少年の『居場所』をキーワードに、さまざまな過ごし方ができる場を設け、青少年が社会とのかかわりを持つことができるように支援。スタッフがラウンジ内の青少年の活動を見守りながら玩具の貸出等を行う。

- ・アート・ティーンズライブラリー
- ・スタジオラウンジ（終日青少年専用の無料スペース）
- ・オープンスタジオ（軽い運動ができるオープンスペース）
- ・サウンドスタジオ（楽器演奏の練習ができる防音スペース）



写真出典： <https://www.musashino.or.jp/place/1001587/1001588.html>

ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス

■特徴

空間の「ブラウジング性（閲覧性）」

・街路や広場をめぐり歩くかのような体験

さまざまな活動に対応するように、各階は大きさの異なるルームが、次々につながることによって回遊がごく自然に行われることを期待している。それぞれのルームでは別々の活動が行われていて、参加しても素通りしてもよく、街路や広場をめぐり歩くかのような体験となるよう設計されている。

・活動が活動を呼ぶような「場」

何気なくひとが集まってくる場所、そこにいることが心地よく、くつろいだ気分でいろいろなことができる場所、思わぬ出会いや発見があり、活動が活動を呼ぶような「場」となることをめざしている。



吹き抜けとドアのない仕切りで繋がっている「ルーム」

写真出典： <https://www.musashino.or.jp/place/>

都城市立図書館（Mallmall）

■基礎データ

市民の居場所になる新たな図書館の形
 都城市立図書館などで構成される中心市街地の複合施設 Mallmall（まるまる）は、地域に点在していた主要な公共機関を複合化し、子育て支援施設や保健センター、イベント広場、今の若い子育て世代がゆっくり過ごせる場所を作ろうという試み。元ショッピングモールを改装してつくられている。

○図書館／○未来創造ステーション／○まちなか交流センター／○保健センター／○子育て世代活動支援センター「ぶれびか」などの複合施設

所在	宮崎県都城市
開館年	2018年
面積	敷地面積：5366㎡ 建築面積：4815㎡ 延べ面積：8046㎡
整備費	建築工事費 本棟：約65億円
整備手法	従来方式
運営手法	保健センターは市直営。図書館などその他の施設は3者を指定管理者として指定
年間運営費	-

■運営主体

株式会社マナビノタネ（代表団体）と株式会社ヴィアックスの2社による事業体「MALコンソーシアム」によって管理運営。1階のカフェは行政財産の目的外使用許可を得て運営。

■施設写真



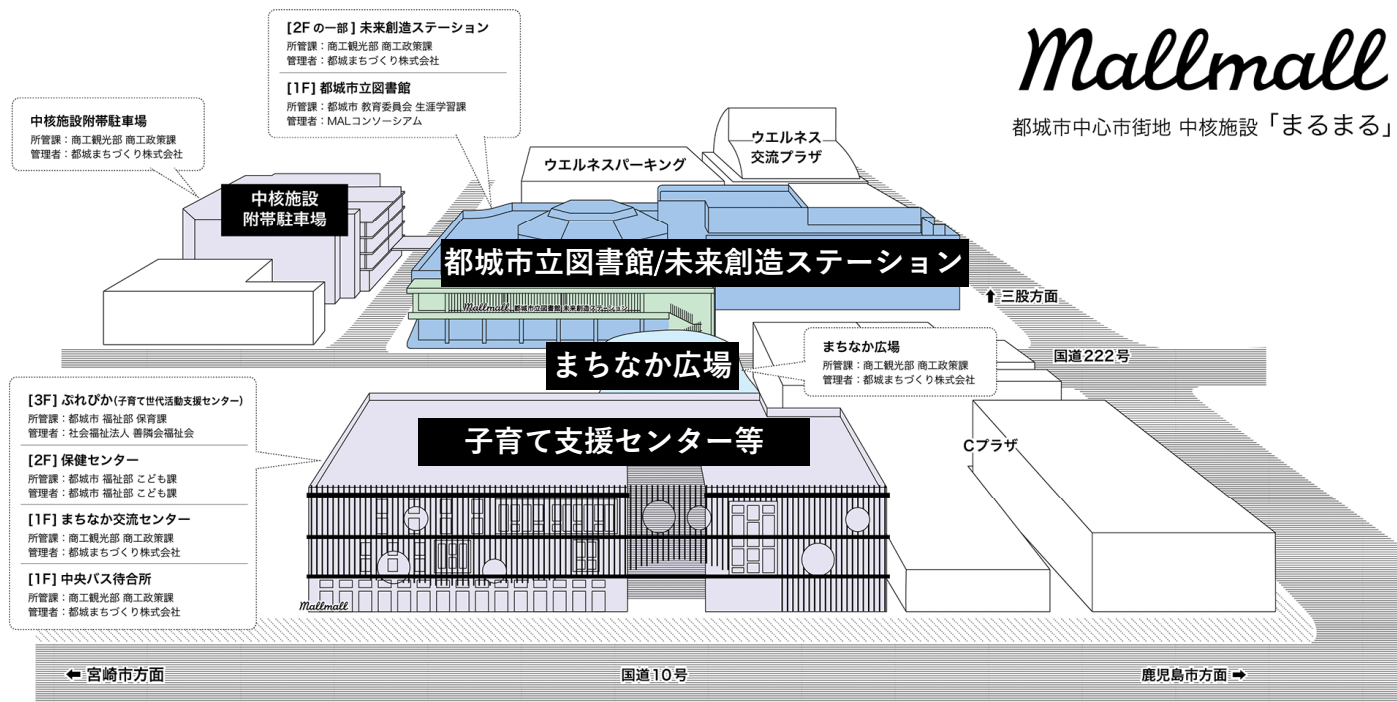
都城市立図書館内観

写真出典：https://miyakonojo.tv/summary/mallmall

都城市立図書館（Mallmall）

■全体構成（Mallmall）

「まちなか広場」を中心に人々が行き交い、地域の暮らしに溶け込み、そして人と人を繋ぐ場所として機能するような街中の公共施設

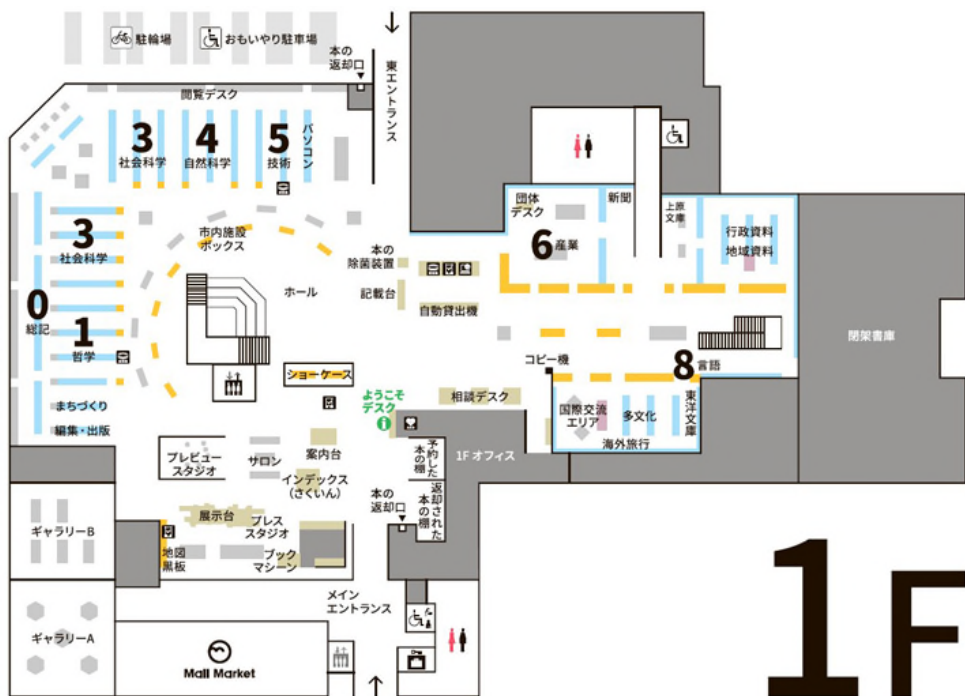


写真出典：https://www.machidukuri-miyakonojo-city.jp/mallmall%E3%81%A8%E3%81%AF/

都城市立図書館（Mallmall）

■施設構成

商業空間の特性を生かし、歩いて楽しい路地と専門店街がモチーフになっている



- ・メインエントランス
- ・ホール
- ・案内
- ・プレビュースタジオ
- ・プレススタジオ
- ・ギャラリー
- ・書架



都城市立図書館のパンフレットから抜粋
写真出典：https://fin.miraiteiban.jp/miyakonojotosyokan/

都城市立図書館（Mallmall）

■施設構成

商業空間の特性を生かし、歩いて楽しい路地と専門店街がモチーフになっている



- ・ティーンズスタジオ
- ・プロジェクトスタジオ
- ・こどものほん
- ・書架



都城市立図書館のパンフレットから抜粋
写真出典：https://fin.miraiteiban.jp/miyakonojotosyokan/

都城市立図書館（Mallmall）

■特徴

市民が表現することを支える機能

《プレススタジオ》

今まで「知ること」を支えてきた図書館における、「表現すること」を支える新しい機能。

編集者、ライター、デザイナーなどの専属スタッフが、表現活動の支援を行い、後世に伝えるべき都城の文化や記憶などを形にしたり、ワークショップの様子を編集した冊子や館内活動記録などを展示する。

- ・レーザーカッター・ブックマシーン・データベース
- ・プレビュースタジオ（映像試写室）などを完備



都城市立図書館のパンフレットから抜粋

都城市立図書館（Mallmall）

■特徴

市民が表現することを支える機能

《プロジェクトスタジオ》

市民による市民のための活動を行う部屋。生活上の不便の解決、楽しい取り組み、交流イベント、未来のための新しいアイデアなど、地域をよりよくする活動をプロジェクトとして実践していく場。



都城市立図書館（Mallmall）

■ 特徴

社会参画の機会を提供する機能

《Fashion Lab.》

青少年の居場所づくりを目的とした機能。「ティーンズスタジオ」内に設置。

Tシャツやワンピース、バッグなど身につけるもののプリントデザインや形、使い方を考え、実際にものをつくることができる。

プロモーション用撮影や、ポスター、紹介する冊子の制作、ファッションショー、カフェショップでの販売などプロジェクトベースの実践を行い、社会への段階的な参画機会を提供していくことを目指す。

例) ファッションラボ公開制作 テキスタイルをつくろう
シルクスクリーンプリントでテキスタイルの制作を行う
ワークショップ。参加費無料。



写真出典：
<http://mallmall.info/event.html?no=1534>
<https://fin.miraiteiban.jp/miyakonojotosyokan/>

八戸市美術館

■基礎データ

種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館

～出会いと学びのアートファーム～

コンセプトは、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」。従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館とは異なり、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指す。

所在	青森県八戸市
開館年	2021年
面積	敷地面積：6732.14㎡ 建築面積：3080.21㎡ 延べ面積：4844.95㎡
整備費	建築工事費（用地費除く） 本棟：約32億円 広場：約2億1千万円
整備手法	従来方式
運営手法	市直営＋一部外部委託方式
年間運営費	-

■運営主体

市、株式会社金入（インフォメーション業務）

■施設写真

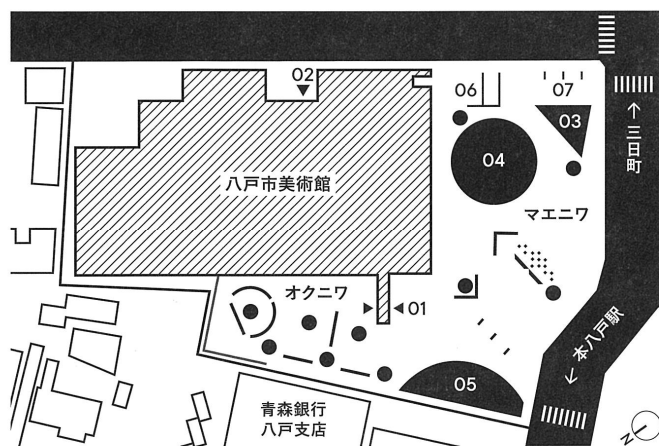


写真出典：https://aomori-tourism.com/spot/detail_2059.html

八戸市美術館

■全体構成

JR本八戸駅と中心街を結ぶ車道からセットバックし、ベンチを配した広場を新設
誰でもくつろげる開放的な屋外空間を計画



屋外

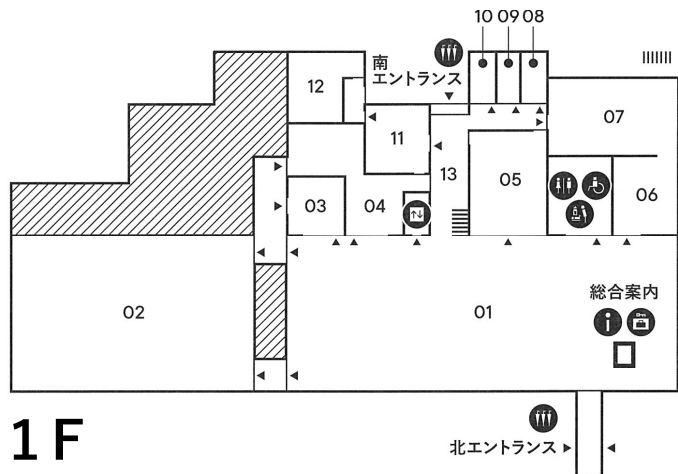
- 01 北エントランス
- 02 南エントランス
- 03 さんかく
- 04 まる
- 05 だんだん
- 06 障がい者用駐車場
- 07 駐輪場

写真出典：https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/hachinohe_art_museum

八戸市美術館

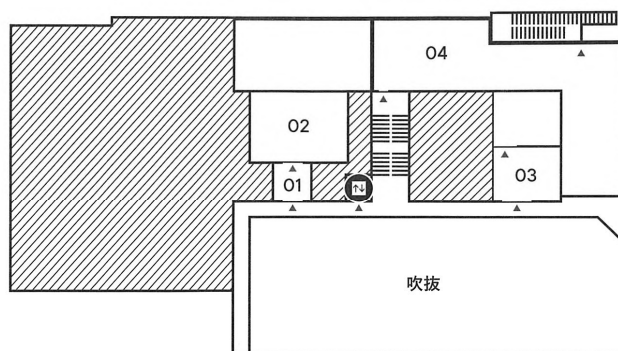
■施設構成

あらゆる活動を可能とする「ジャイアントルーム」と展示や制作といったさまざまな機能に特化した「個室群」からなる



1F

- | | |
|--------------|---------------|
| 01 ジャイアントルーム | 08 会議室 1 |
| 02 ホワイトキューブ | 09 会議室 2 |
| 03 ブラックキューブ | 10 会議室 3 |
| 04 コレクションラボ | 11 ワークショップルーム |
| 05 スタジオ | 12 アトリエ |
| 06 ギャラリー 1 | 13 ティールーム |
| 07 ギャラリー 2 | |



2F

- | |
|---------------|
| 01 応接室 |
| 02 事務室 |
| 03 八戸学院まちなかラボ |
| 04 テラス |

八戸市美術館

■特徴

開館前の取り組み

《はちのへまちなかアートラボCo部屋》

準備段階で市民の関心を高める取り組み。

新しい美術館整備に向けた市民の期待や関心を高められるよう、市内各所からのアクセスが容易な中心街に新美術館建設推進室の事務室を移転し、市内の空き店舗を活用し新拠点を開設。

- ・ サロンスペース、展示スペースとして活用
- ・ 展覧会に関する情報発信／ミニ展覧会／市民勉強会



八戸市美術館

■特徴

開館後の取り組み

《市民参画の仕組み：アートファーマー》

美術館活動に主体的に関わる市民＝アートでコミュニティを耕して育む「アートファーマー」と呼び、さまざまな経験ができる環境をつくり出す試み。

さまざまな属性の人々や地域資源が出会い、アートを通して地域社会のことを考えたり、アーティストとの創作活動に取り組んだりする「アートファーマープロジェクト」を継続的に実施。



出典：https://aomori-tourism.com/spot/detail_2059.html

（例）『八戸市美術館建築ツアーガイド講座』

美術館の建物の特徴や魅力を来館者に伝える、「八戸市美術館建築ツアーガイド」設計者の話を聞いたり、参加者同士で話し合いながら、オリジナルのツアーコースを体験。



出典：https://hachinohe-art-museum.jp/project/1172/

八戸市美術館

■特徴

開館後の取り組み

《青森県内での連携：AOMORI GOKAN》

青森県内にはすでにユニークな現代美術館が点在しており、八戸市美術館も含めた5館は連携プロジェクト「5館が5感を刺激する—AOMORI GOKAN」をスタートさせている。

- ・「青森アートミュージアム5館連携協議会」の設立
- ・アートを軸に多様化する旅に対応したポータルサイト
- ・5つの施設の展覧会スケジュールが一同に見える機能
- ・5館と周辺のアートスポットをつなぐ周遊プラン



弘前れんが倉庫美術館

（仮称）八戸市新美術館

出典：https://confortmag.net/20210227aomori-gokan-talk/



出典：https://aomorigokan.com/

八戸市美術館

■特徴

市民連携で地域の文化をつくる

《ジャイアントルーム》

多目的に使える大空間「ジャイアントルーム」を設置。

- ・可動式間仕切りや家具で居場所を作る
- ・市民の日常的な活動や、市民と美術館、市民同士の交流から新しい活動が生まれ、広がることを目指している。



出典：<https://bijutsutecho.com/museums-galleries/1034>



活用例)
食と音楽とパフォーマンスのイベント「ジャイアント食堂」

市民パフォーマンス・音楽ライブ、キッチンカー・飲食店出店、イベントワークショップを開催。
入場無料・予約不要（出入り自由）